那須塩原市議会　フロンティアなすの

行　政　視　察　報　告　書

視察期間　平成３０年１月３１日（水）～２月２日（金）

１　視　察　日　平成３０年１月３１日（水）
　　視　察　地　鳥取県　若桜町
　　調査内容　ジビエの活用について

　　視　察　日　平成３０年１月３１日（水）
　　視　察　地　鳥取県　鳥取市
　　調査内容　鳥取市さじアストロパークについて

２　視　察　日　平成３０年２月１日（木）
　　視　察　地　鳥取県　倉吉市
　　調査内容　地域産業振興ビジョン及び関金温泉プラチナプロジェクトについて

３　視　察　日　平成３０年２月２日（金）
　　視　察　地　鳥取県　鳥取市
　　調査内容　市立美和小学校における午前授業５時間制の取り組みについて

那須塩原市議会
フロンティアなすの　　齋藤寿一　小島耕一

視察日　平成３０年１月３１日（水）
視察地　鳥取県　若桜町役場
テーマ　ジビエの取り組み
報告者　小島　耕一

若桜町の概要

面積　１９９．３K㎡（山林９５％）
世帯数１２６１　　人口　３，２７２人

若桜町は鳥取県の東南端に位置し、兵庫県と岡山県に接している。鳥取市と姫路市を結ぶ国道 29 号線が町の中央を走っている。

江戸時代に宿場町であったことから、白壁の土蔵群が残り、若桜鉄道にはＳＬが走り、レトロな駅舎で観光地にもなっている。

ジビエの活用について

平成 24 年に鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、若桜町、八頭町共同で事業費 2700 万円でシカ、イノシシの加工施設、わかさ２９工房を整備した。平成 29 年にはＨＡＣＣＥＰ適合施設に認定された。

運営は、指定管理者の猪鹿庵（ジビエアン）に依頼しており、平成 28 年度の受け入れ頭数は、シカ 1748 頭、イノシシ 109 頭で処理頭数は最高を記録し、黒字となっている。

販売先は、関東や関西のレストラン約 100 社、鳥取県内のレストラン約 20 社、卸売店、郡内の小中学校の給食や道の駅でも販売している。販売単価は、シカのロース、ヒレが 3000 円、モモ 2000 円/ｋｇ、イノシシの上ロース 4500 円、上バラ 3500 円で牛肉並みの販売価格である。

ジビエ活用と鳥獣被害の推移

施設導入前は、猟師が捕獲したイノシシやシカの処理に埋設等の手間がかかっており、猟師の負担が大きかったが、施設導入後は猟師が捕獲したシカやイノシシの処理が施設搬入のみと楽になったことから、捕獲頭数が増加するとともに、侵入防止策の設置も進み、平成 28 年の鳥獣被害額は急激に減少した。

加工施設の経営

加工施設の運営コストは約 800 万円であり、5 割弱が人件費、約 2 割が残差処理、約１割が光熱水費、消耗品費等で、解体処理者の効率が上がっていることから黒字となった。

ブランド化や観光への活用

ＨＡＣＣＥＰをとって安全安心のジビエをＰＲするとともに、フランス料理の世界大会の食材として採用され、ジビエサミットやジビエフェスタを開催し、観光客の誘客に繋げている。

わかさ２９工房現地視察

解体施設を調査した。ちょうど捕獲されたシカが搬入されたところであった。

解体の流れの説明を受けるとともに、販売するブロックの状況を確認した。

シカは肉の部分が 3 割と少ないことから、処理頭数の割に販売額は少ないとのことであった。

所見

ジビエ加工施設の導入は鳥獣害被害対策を低減する効果が高いことが確認できた。また、ジビエ肉販売が観光客の誘客にも効果が期待できることもわかった。

本市のシカ、イノシシによる被害が大きいことから、捕獲を促進する加工施設の設置は必要である。　そこで、放射性物質の課題があることから、捕獲鳥獣の実態把握を行い、猟友会などと協議を行って、事業化を期待したい。

視察日　平成３０年１月３１日（水）
視察地　鳥取県　鳥取市
テーマ　さじアストロパークについて
報告者　齋藤　寿一

鳥取県は環境省が実施した全国星空継続観察において、いわゆる「星のみえやすさ」で全国１位に輝くほど美しい星空が自慢です。雄大な鳥取砂丘の真ん中から眺める星空は格別ですし、名峰大山も星空写真スポットとして、人気があるなど県内全域にわたって美しい星空を観察できます。

美しい星空には、夜空が暗いこと、空気がきれいなことが不可欠。人口が全国で最も少ない鳥取県は星空観察にうってつけの場所です。

夜空を見上げれば星に手が届きそう。こんな鳥取県を皆さんにもっと堪能していただきたいという思いを込めて「星取県」を名乗ることにいたしました。

鳥取市の「さじアストロパーク」などの観測拠点が星空の美しさで我が国随一とされており、全ての市町村で天の川を観測できるなど、後世まで長く伝えるべき「星空」という大切な誇るべき「宝」を有しています。

この美しい星空が見える環境を県民の財産として保全し、次世代に引き継いでいくために、「鳥取県星空保全条例」を制定しました。

さじアストロパークは、口径１０３ｃｍ望遠鏡（キラット望遠鏡）やプラネタリウム、宿泊施設を備えた鳥取県唯一の公開天文台です。

大人も子供の楽しみながら宇宙や化学を学ぶことができます。大自然の中でたくさんのイベントを開催し、家族と友達・恋人と、一人でも利用可能であります。

事業概要
工期　平成３年 10 月～平成７年３月完成
総事業費　17 億円
本工事費　1,558,267 千円
設計管理費　69,040　千円
天文関係備品 48,189　千円
用地補償費　　5,129　千円
事務費　　19,375　千円
電源立地促進交付金　　303,666 千円
起債　　1,249,430 千円
一般財源　　146,904 千円

事業内容

・佐治天文台
　ＲＣ地上４階　地下１階
　床面積　1,594．４㎡　大型観測施設（103ｃｍ反射望遠鏡）太陽観測室（4 連式太陽望遠鏡）展示ホール、プラネタリウム、会議室、障碍者用エレベータ
・宿泊研修施設（コスモスの宿）
　木造２階建　床面積694.55㎡
人口温泉　10 畳 7 室　　6 畳 2 室　食堂 50 名収容
・天体学習宿泊研修施設（4 棟）
　各種望遠鏡（4m ドーム内）を備えた宿泊研修施設
　バス、トイレ、キッチン、居間、寝室（2）
　床面積 94.24 ㎡　109.98 ㎡
・レストハウス
　木造平屋建　床面積　96.85 ㎡
　軽食・喫茶　収容人員 30 席
・園地整備
　整備面積　３．２ha（電気、通信設備含む）
　星の学習広場、植樹、日時計、多目的広場、駐車場、
・給水汚水処理施設
　４７㎥級　給水タンク、地下式消火栓、配管等一式
　320 人槽　接触ばっ気方式、汚水合併処理施設、配管等一式

佐治天文台を中心とする「さじアストロパーク整備事業」は昭和 63 年ふるさと創生１億円事業の１つとしてスタートした。

　世界でも宿泊施設（コテージ）と天体望遠鏡が一体となっている施設はないという。また、この施設で新たな彗星を 21 個見つけており、17 の星に単独の名をつけたという素晴らしい成果を上げています。

所感

　本市においても星空がきれいに見える場所があります。これを調査して誘客に繋げていきたい。

視察日　平成３０年２月１日（木）
視察地　鳥取県　倉吉市
テーマ　倉吉市地域産業振興ビジョン
報告者　小島　耕一

倉吉市の概要

　倉吉市は面積 272ｋ㎡で人口 48,045 人、鳥取県の中央に位置し、伯耆の国として 8 世紀奈良時代からの古い歴史を有しており、江戸時代には宿場町としてさかえ、昭和 28 年に２町７村が合併して倉吉市となった。平成１７年に関金町と合併して、現在にいたっている。

倉吉市くらしよし産業元気条例の制定

　市議会議員１２名が人口減少の中で地域が活力を失ってきたことに危機感をもち、倉吉

市に産業振興ビジョンが無いことから「地域産業を元気にすることで市民生活をよくすること」を目的に、平成２１年に「倉吉市くらしよし産業元気条例」を議員提案により制定した。この条例では、市長、議会、市民、事業者の役割を明確にし、ビジョン策定や戦略会議の設置を規定した。

この活動は、議会の積極的な取り組みとして、平成 22 年のマニュフェスト大賞、地方議会部門「最優秀賞」を受賞した。

倉吉市地域産業振興戦略会議の設置

産業振興ビジョンの策定や進捗管理、成果評価のために市民・事業者・産学金官の代表者で構成する戦略会議を設置した。

倉吉市地域産業振興ビジョンの策定

戦略会議を 4 回開催し、産業振興の方向性や数値目標、施策や取り組みに関する議論を重ね産業振興ビジョンを策定した。

倉吉市地域産業振興ビジョンの取り組み

企業誘致推進　企業立地補助制度の拡充や誘致活動により新規に 10 社が誘致されるとともに、6 社が規模拡大、600 人の雇用増が達成された。

地域商品の開発と販路開拓　7 社が商談会へ参加、販路開拓を行った。

空き店舗対策　新規開業希望者の店舗経営を支援し、空き店舗率が商店街で 20.5%から 19.4%に減少した。

倉吉市地域産業振興ビジョンの改定

5 回の戦略会議を開催し、第 1 期の反省を行い、戦略と施策の役割分担を明確にし、目的・目標を設定した。

評価のできる戦略体系の設定、評価に基づく進行管理を行うために、戦略体系図の策定と戦略評価シートによる施策推進の評価を行う。特に、戦略評価シートの活用では、これまでの戦略評価シートを基にしてＰＤＣＡサイクルを回すことにより、的確なビジョン推進に活かすこととした。

所見

倉吉市の地域産業振興ビジョンは市議会議員の提案によってはじまり、議会改革でも高く評価されている。

また、ビジョンを進める戦略体系図と戦略評価シートは、戦略の目的と指標、成果指標推移、役割分担、戦略の成果水準とその背景、施策の振り返り、施策指標の推移、戦略課題の今後の方向性、戦略会議での意見を記載しており、業務推進に大変参考になる。

視察日	平成 30 年２月１日（木）
視察地	鳥取県　倉吉市
テーマ	温泉を中心としたプラチナプロジェクトの取り組み
報告者	小島　耕一

関金温泉の概要

関金温泉は、倉吉市の南東にあり、1300 年の歴史を持つラジウム含量の高い温泉である。昭和の良い時代には 10 軒の旅館があり、温泉客で賑わっていた時代もあったが、旅館が 4 件に減少し、温泉地の存続が危機的状況となった。

プラチナプロジェクトの始動

平成 23 年に日本の名湯百選に選ばれたことを契機に、住民に利用価値の高い温泉を提供していこうと、住民目線での課題解決をスタートさせた。関金温泉が白金の湯といわれ

ていることからプラチナプロジェクトの名称で商工会を中心に活動を開始した。

休養・保養・療養効果の高い「温泉」を中心とした取り組みが必要なことから、観光・健康・介護をキーワードに温泉地づくりをはじめた。

観光では、心身の休養を求める個人・グループ客をターゲットに、自然に触れ、心身をリセットできる旅、体験を通じ学び、住んでみたいと思う旅の提供を目指す。

健康では、保養を求める個人客をターゲットに湯中運動など健康寿命を延ばすプログラムの導入を目指す。

介護では、介護者と療養を求める家族をターゲットに介護者が家族と一緒に気軽に過ごせる旅館となり、社会貢献の高い温泉を目指すとした。

（1） 湯中運動・湯上り体操

温泉の健康効果をさらに高めるために、湯中運動・湯上り体操を導入する。湯中運動を体験してもらい、その良さを理解してサークル活動に発展させるとともに、それを広げるリーダーを育成することとしている。

サークル活動に登録している人数が 70 名になったとのこと。湯中運動の効果についても検証を行っており、膝・腰の慢性の関節症に改善の効果が認められたという。

（2） 介護付旅館利用サービス

あきらめていた家族での温泉旅行をもう一度復活させるというコンセプトのもと、宿泊施設、旅行会社、介護施設が提携して、介護者のデイサービスを行う。家族は介護をしながら、自らも保養・休養することができ、温泉旅を満喫できる。

プラチナプロジェクトの今後の方向

ストレス社会の中で、温泉地の休養・保養・療養を提供する機能が重要視されている。

また、薬膳料理などの栄養と湯中運動やアウトドアスポーツが楽しめむなど健康効果を発揮することも期待されている。加えて、グローバル化の中で地域文化や伝統、農業や商工業の匠の技といった日本文化、日本文明を体験する拠点としての温泉地も期待されている。また、健常者ばかりでなく高齢者など介護者も含め、住民並びに観光客に社会的貢献の高い温泉地となる必要性もある。

また、都市部や海外からの移住者にやさしい、住みよいまち、そしてやさしいひとを目指すとのことで上記の課題解決に取り組むこととしている。

所見

関金温泉のプラチナプロジェクトは、新たな温泉地の理想に向けて動き出したことには目を見張るものがある。

これまでの温泉地が、観光客相手の宿泊や土産物を提供する考えから、市民や住民、観光客、高齢者、障碍者まで含めたみんなの幸せを目標に活動を開始したことは素晴らしいことと感じた。

本市にも塩原・板室温泉があることから、温泉地としての機能を見直し、温泉地としてのミッションを健康寿命の長寿化や移住定住・産業振興、文化スポーツの活発化などに変えていくことが時代の要請であり、具体的な事例を確認できて大変参考になった。

視察日　平成30年２月２日（金）
視察地　鳥取県　鳥取市
テーマ　午前授業５時間制について
報告者　齋藤　寿一

鳥取市立美和小学校では、午前中の授業時間を通常より１時間増やす「午前５時間制」を実施している。

授業時間を午前に集約し、ゆとりができた午後は多目的な活動の時間にあてることで、教員の多忙感の解消と教材研究による児童の学力向上をめざすという。

鳥取県内の小学校で初の試みで教員の多忙さが指摘される教育現場のあり方に一石を投じる可能性がある。

教員の業務量増加に歯止めがかからない現状に問題意識を抱いた三谷校長は、全国でも少数ながら実践されている午前５時間制の検討を開始。数年後には英語や道徳が小学校正式教科となり、さらなる現場の負担増が予想されることから、「改善するなら今」とのおもいがあった。

始業を早め、休み時間を短くすることや給食の時間を遅らすことによって、午前に５時間分の枠を確保する。

午後には、授業外活動の「みわっこタイム」（1 時間）を新設し、タブレット端末を使った学習や外部講師による指導により、「児童の自主性を育む」時間に位置付けた。

意識面での成果

実際の導入効果は、先進地の一つ宮城県登米市では 2014 年から 3 小学校が午前 5 時間制を実施しており、同市教育委員会学校教育課によると実施校のひとつでは教員のやく割 8 割が「多忙感が改善された」と回答している。

給食が遅くなる分、家庭でしっかり朝食をとる児童も増えたと意識の面での成果を指摘する。

美和小学校では、午前５時間制を試行的に始めた直後、保護者と児童を対象にアンケートを実施した。保護者からは「午前の集中力が持つのか」と懸念の声が上がったが、児童の約３分の２は好意的な反応を寄せた。

ＰＴＡ理事会の承認もあり、4 月の完全実施に踏み切った。

導入から前年同期に比べて児童の欠席や保健室の利用者が減少するなど変化が生じている。教員も余裕ができた分、授業準備や児童の個別指導などの時間が確保できるようになった。

三谷校長は、「児童は早寝早起きといった生活リズムが定着してきた。それまで事務作業などに追われていた教員たちも児童と触れ合う姿が目立つようになっている」と手ごたえをつかんでいる。

所見

午前授業５時間制を視察して、美和小学校はもとより、東京都武蔵村山市立第二小学校、栃木県佐野市立栃本小学校、静岡県焼津市立和田小学校、宮城県登米市の３小学校のデータによると、教員の時間がとれるようになった。不登校、保健室利用が減った。登校しぶりがなくなった。欠席数が減ったなどの効果が数値で半減していることから、教員にとっても児童にとっても素晴らしい効果があり、本市への導入を望みたい。